

# 衆議院議員 おおにし健介

# ONIKEN PRESS



令和8年  
新春号

## プロフィール

- ▶ S.46.4.13 生まれ
- ▶ 京大法
- ▶ 国会議員、在米大使館員、馬淵澄夫衆議院議員政策秘書
- ▶ 09初当選、6期連続当選
- ▶ 党青年局長、選対委員長等を歴任



衆議院議員  
おおにし健介  
公式LINEにご登録ください



## 令和8年「丙午（ひのえうま）」

陰陽五行説では「丙」も「午」も「火」の性質を持つため、江戸時代には「丙午の年は火災が多い」という言い伝えがあり、さらに八百屋お七が丙午生まれとされたことから、「丙午生まれの女性は気性が激しく、夫の命を縮める」という迷信が広まりました。この迷信により、1966年の出生数は136万人で、前年より46万人（▲25%）の減少を示しました。しかし、昨年の出生数は68万人なので、もはやそんなことを言っているらはどの深刻な少子化であり、子ども子育て支援にもっと力を入れる必要があります。私も党の子ども・若者応援本部長として頑張ります。

馬にまつわる格言に「良馬は後ろの草を食わず」という中国のことわざがあります。良い馬は、自分の足で踏んでしまった草ではなく、前方の未だ踏まれてない新鮮な草を食べながら進んでいくという意味から、過去にこだわるのではなく、未来に向かって積極的に進むのが大事という言葉です。

令和8年、私も過去にとらわれず、まっすぐ前を向いて進んでいきます。



## 高市さんへの手紙

首相に宛てた手紙の形で高市政権に対する思いを書いてみました。

拝啓 高市早苗 様

米・原子力空母ジョージ・ワシントンの艦内にぎっしり詰めかけた多数の米兵らを前に、トランプ大統領の隣で拳を突き上げるあなたの姿を見て、「ほしゃぎすぎ」、「媚びている」と批判する声もありますが、私は一人の国民として、颯爽として、かつこいいよと思いました。

あなたは、第104代の総理大臣に就任し、日本史上初の女性総理大臣となり、「ガラスの天井」を突き破りました。女性初ということに加え、奈良県初の総理大臣であり、世襲議員でもなく、派閥の領袖でもないあなたが最高権力者の座に上りつめたことに尊敬の念を抱くと同時に期待もしています。

私は、会社員だった父の転勤で、中高生時代を奈良で過ごしました。大学卒業後、参議院事務局の職員として永田町で働いていた私は、当時、経済産業副大臣となり、メディアでも活躍していた奈良出身のあなたの活躍に注目していました。そんな中、あなたが2003年の総選挙で新人の馬淵さんに小選挙区で破れ比例復活しなかったことを知って驚きました。その時、偶然、知人の奈良市出身の官僚が「奈良1区で初当選した馬淵さんとは、前からの知りあいで、今度、事務所に挨拶に行くんだけど、一緒に行かないか。」と誘ってくれました。私は「あの高市さんに勝った馬淵さんというのは、どんな人なのだろう。」という興味から馬淵さんに会い、それがきっかけとなり、馬淵代議士の政策秘書となりました。つまり、高市さんの存在がなければ、私が馬淵さんの秘書になつてよかつたかもしれません。

その後、私が衆議院に当選してからは、議員会館の事務所が同じ階にあるので、エレベーターでもよくお会いしました。最近、議場やテレビ画面を通して拝見すると、顔がこけて、げつそりした容姿に体調が心配になります。

あなたは、総裁選に勝利した直後、「私自身がワーク・ライフバランスという言葉を捨てます。働いて、働いて、働いて、働きます」と宣言しました。この言葉は、流行語大賞を受賞しました。

日本人は、勤労を美徳とする民族です。また、首相ががむしゃらに仕事に取り組む姿を称賛する声もあります。1989年の流行語大賞では、栄養ドリンクのCMで話題となった「24時間働けますか？」のフレーズが銅賞を受賞ましたが、Z世代は、「タイパ」を重視し、プライベート時間を大切にします。

あなたの発言が長時間労働を促すことを意図したものでは無いことは理解していますが、わが国では、過労死は過去最多で、長時間労働が性別役割分担意識の固定化を招いてきました。一方で、デンマークでは、午後4時に帰宅しても高い競争力を誇っています。



※出典：首相官邸ホームページ  
「日米両首脳による米海軍横須賀基地訪問」動画より引用

「働いて、働いて」のスタイルの先に待っているのは「強制で幸福」な日本ではなく、「疲弊した息苦しい社会」だと思います。私の地元は、「日本のデンマーク」と呼ばれてきました。私は、日本を家庭生活を大事にしても国際競争力の高いデンマークのような国にしたいと思います。

「働いて×5」と同じく私が達成感をおぼえるのは、「責任ある積極財政」を掲げる「サナエノミクス」です。安倍政権で内閣参与を務めたイエール大学の浜田名誉教授も「アベノミクスはデフレ状況に合わせた施策で、今は真逆。」と述べています。

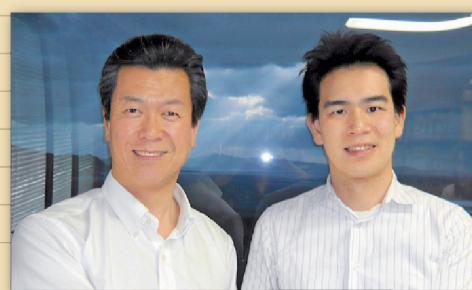
財政出動は、インフレを加速させる懼れがあり、野放図な国債発行により財政運営に対する信認が失われれば、円安も加速することになります。現在の物価高の主な要因は、円安による食糧やエネルギーなど輸入物価の高騰であり、物価高対策にも逆行します。

アベノミクスは、トリクルダム（滴り落ち）を生まず、この間、日本では実質賃金は上がりらず、企業は内部留保をため込み、労働分配率は低下し続けてきました。企業が人への投資やデジタル化投資を怠り、非正規雇用等安価な労働力を都合よく使ってきた結果、日本では「失われた30年」と呼ばれる日本経済の長期低迷を招いてきました。

戦略分野に国が投資すれば、それが波及し経済が成長し、賃金が上がりというこれまでの考え方を転換する必要があるのではでしょうか。少子化の進展により、わが国では、深刻な人手不足が続いている。高い賃金を払わない人が集まるらず、企業は経済活動を続けることはできません。高い賃金を払うためには、企業は積極的なデジタル投資を行うなど生産性を上げなければならず、その結果として、経済が成長する、つまり、順序が逆のではありませんか。通常国会では、予算委員会で、そうしたことについても、首相と議論させていただくチャンスがあればと思っています。

女性初の内閣総理大臣の誕生と26年ぶりの公明党の連立離脱は、私は、これから起ころる政界の大きな変革の序奏だと思います。後世に振り返った時、高市内閣の誕生が日本政治の転換点だったとなることを期待しています。

一人で抱え込み過ぎず、くじぐいも身体に気をつけて、今年も頑張って下さい。



敬具

衆議院議員  
大西 健介 拝

